

令和3年度校内研修計画

佐世保市立広田小学校

1 研修の目的

本校児童の実態をもとに、学校・家庭・地域社会の要請をふまえ、指導内容や指導方法の工夫・改善に努め、教師としての資質向上を図る。

2 研修にあたって

- 学校教育目標の達成を目指し、職員間の共通理解を図り、共に研究する態度を持ち続ける。
- 自らの教養を高め、常に教育者としての使命感をもち、互いに刺激し合いながら子どもと共に探究する教師集団をつくる。

3 校内研修

(1) 研究主題

進んで考え、表現し、主体的に学びを深め合う児童の育成
～数学的な表現を用いた学習を通して～

(2) 主題設定の理由

①今日の教育的課題から

現代を生きる私たちを取り巻く社会は、グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新によって、急速に変化し多様化している。学習指導要領においても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、より良い社会や人生を切り拓いていく「生きる力」を身に付けさせ、未来の創り手となる児童を育成する学校教育の実現が求められている。そして、教育課程全体や各教科などの学びを通じて、「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことが求められている。

そこで本校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点による算数科の授業改善を通して、資質・能力の育成を目指すと共に、研究主題に掲げる児童の姿を具現化していく。

②本校の児童の実態から

本校の児童は明るく活発で、ほとんどの児童が真面目な態度で学習に臨むことができる。だが、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、考えを伝え合いながら自己や集団の考えを発展させたりする点においては、まだまだ改善の余地がある。特に、多様な観点から考察する能力や判断力、思考力や表現力については、長期的な視野に立つての育成が必要である。主体的で協働的な日々の学習を通じて、自分の考えや生き方を見つめ、適切な人間関係を築いていく力を育成し、自己理解や自己肯定感を高めていきたい。

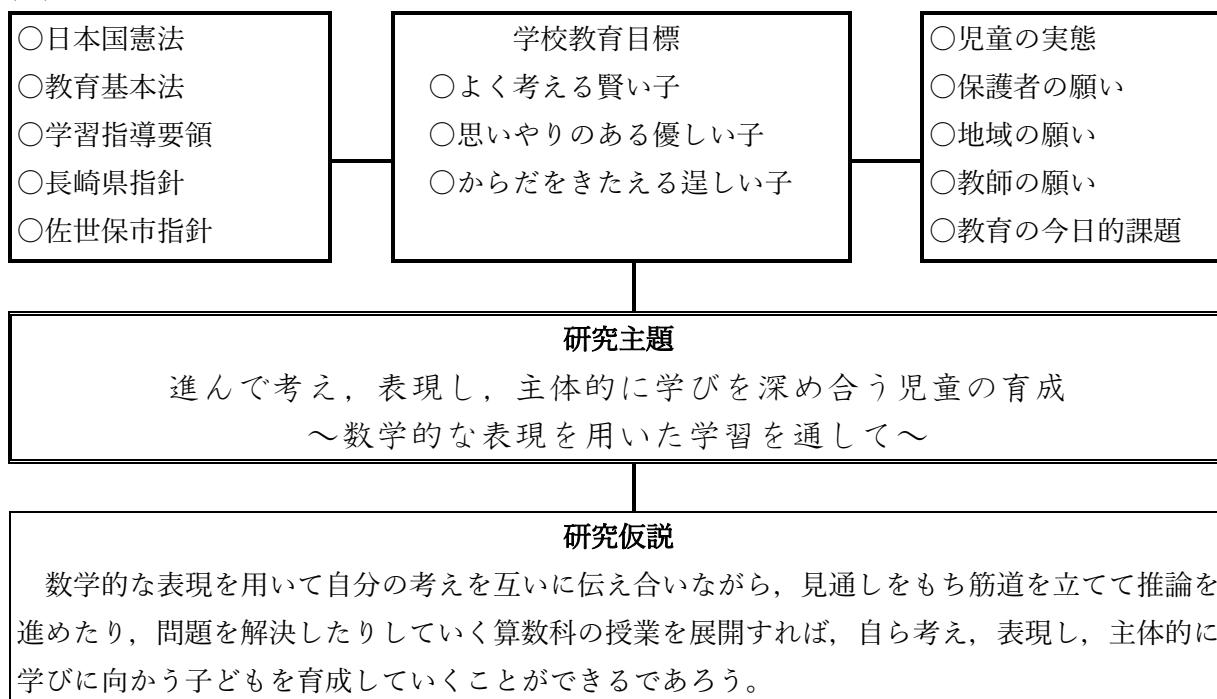
(3) 研究主題のとらえ方

学習指導要領には、算数科で育成を目指す資質・能力の3つの柱の中に、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う」と示されている。

数学的に表現することは、事象を数理的に考察する過程で、観察したり見いだしたりした数量や図形の性質などを的確に表したり、考察の結果や判断などについて根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、既習の内容を活用する手順を順序よく説明したりする場面で必要になる。また、数学的な表現を柔軟に用いることで、互いに自分の思いや考えを共通の場で伝え合うことが可能となり、それらを共有したり質的にたかめたりすることができる。

表現することと知的なコミュニケーションが、互いを支え、質を高めるよう相互に作用していく授業を展開していくことで、算数の学習は充実していく。本校では、こうした視点に立った算数科の授業改善を通じて、課題解決の見通しをもち、自ら学び考えていく児童を育成していく。

(4) 校内研究全体構想



(5) 研究の内容

○「授業改善部」「授業検証部」「チャレンジタイム研究部」の3つの専門部を設置し、研究を深める。

- ・「授業改善部」…全体授業の構想と実施
- ・「授業検証部」…各学年テーマに設定した評価単元の検証問題作成
- ・「チャレンジタイム部」…計算力に特化したチャレンジタイムの年間計画作成、問題準備

○全体授業を4回（低・中・5・6）実施し、職員はその中の3回を選んで授業参観・研究会に参加する。指導案検討は全体で行わず、各学年部会内で行う。

○思考ツールを活用した検討会及び研究会を実施し、職員が主体的に学び合う場を作り出す。

○初任研、経年研の授業も含め、日常から学び合う教師集団を作り上げる。